戰時國民幼稚園

此の國民的積極感情の教育力（二）

倉橋惣三

戰時國民幼稚園で最も意を注ぐべきは、此の國民的積極感情の教育力の發揮である。

戰下幼兒保育には特有の問題が種々ある。その一は、戰下物資不足による保育上の缺陷である。その二は、戰下の必須に向つての保育の適應である。この二點が、大いなる考慮をわれらの上に課するものであることは言ふまでもない。これ等の課題を忘れて、悠々たることも平然たることも許されない。或る意味では、これらの考慮の下に置かれてあることが、戰時保育の所謂戰時的な所以であるともいはれてゐる位である。

ところで、この第一問は、消極的課題である。第二問は、當面的課題である。必ずしも斯くの如き言葉で言ひ切るべきことではないが、兎に角く、先づ積極的に、先づ將來的でない性質をもつ。戰時幼兒保育にもいろ〳〵あつて、之等以上のものをもたない場合もあるかも知れない。戰時保育問題の名で取扱はれ來つた一般的場合は、大體、この二つが主要課題とせられてゐた。嘗ての世界大戰の時のヨーロッパ諸國、今次ヨーロッパ戰爭の場合に於ける諸國、皆そうであつた。そこで、戰時幼兒保育問題といへば、先づこれらを主題とせられる傾がないでもない。殊に、ヨーロッパの資料を傍に置いての考究などでは、そうなるのも一應無理はない。

しかし、此の大東亞戰爭の主人公たる皇國の場合は、決して、斯く消極的、當面的だけの課題下に置かれてゐるものではないのである。その外に、否その基底に、又その總てを覆ふて、ぐつと積極的な、ずつと本質的な課題があるのである。それは言ふまでもない。大東亞戰爭の本義の中に充溢してゐる國民的感情の積極性、宣戰以來の赫々たる戰果によつて更に盛り上つてゐる國民的感情の積極性がもつ、無比最强なる教育力の發揮である。

此の時、國家の幼兒の保育の任にあるもの、苟も、消極的課題や當面的課題にのみ卽して、折角の積極性を、その日々の教育に徹底させることを忘つたら、それこそ、最も深い意味で非時局的といへる。如何にして、此の國民的感情の積極性を幼兒の至純の魂に印銘させるか、これこそ、われらの最重要の考究でなければならぬ。先づ、われらの裏に充溢し、盛り上つてゐる、この國民的感情の積極性がもつ教育力を以て。——あゝ有り難い戰時國民幼稚園ではある。